

3 - 19 洲崎沖南部の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure at the Southern Offing of Sunosaki

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

フィリピン海プレート北端部の地震テクトニクスに関する総合研究（科学技術振興調整費）の一環として、昭和56年8月から9月にかけて洲崎沖南部海底地形・地質構造調査を行い、縮尺5万分の1の海底地形図、海底地質構造図を作成した。昭和55年度の成果と接合し第1図、第2図を調整した。

調査海域の西部には相模舟状海盆が分布し、東部には大陸棚が分布する。大陸棚と舟状海盆の間の海域には海丘、堆、海脚及び海底谷が分布し、複雑な海底地形を示す。

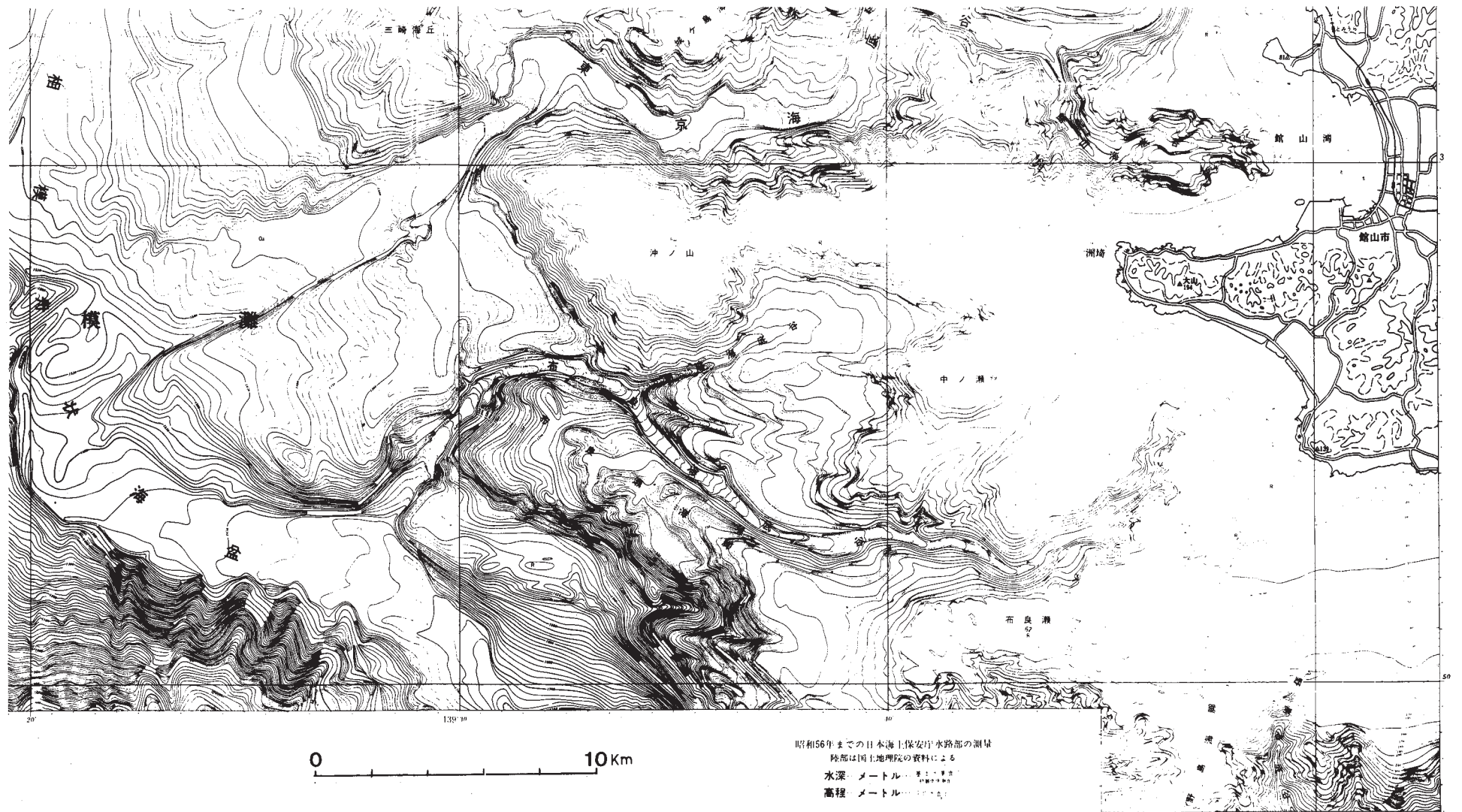
地質構造は沖ノ山堆と布良瀬をむすぶ線付近を境にして異なった特徴を示す。相模舟状海盆側は主としてWNW - ESE方向の褶曲が発達する。大陸棚側はE - W, ENE - WSW方向の褶曲や断層がよく発達している。堆積物の分布も大陸棚側では基盤が直接露出している地域が多く、斜面には斜面に平行する層理を示す堆積物がうすく分布する。一方、相模舟状トラフでは堆積が厚く、とくに中心部ではシングルチャネルのエアガンによっても基盤をとらえることができなかった。堆積物はよく成層しており、内部に顕著な不整合がみられなかった。

相模舟状海盆の南西側の伊豆大島側の斜面では基盤が海底に直接露出し、起伏にとんだ地形を示し、音波探査記録上にみられる断層・褶曲は少なかった。

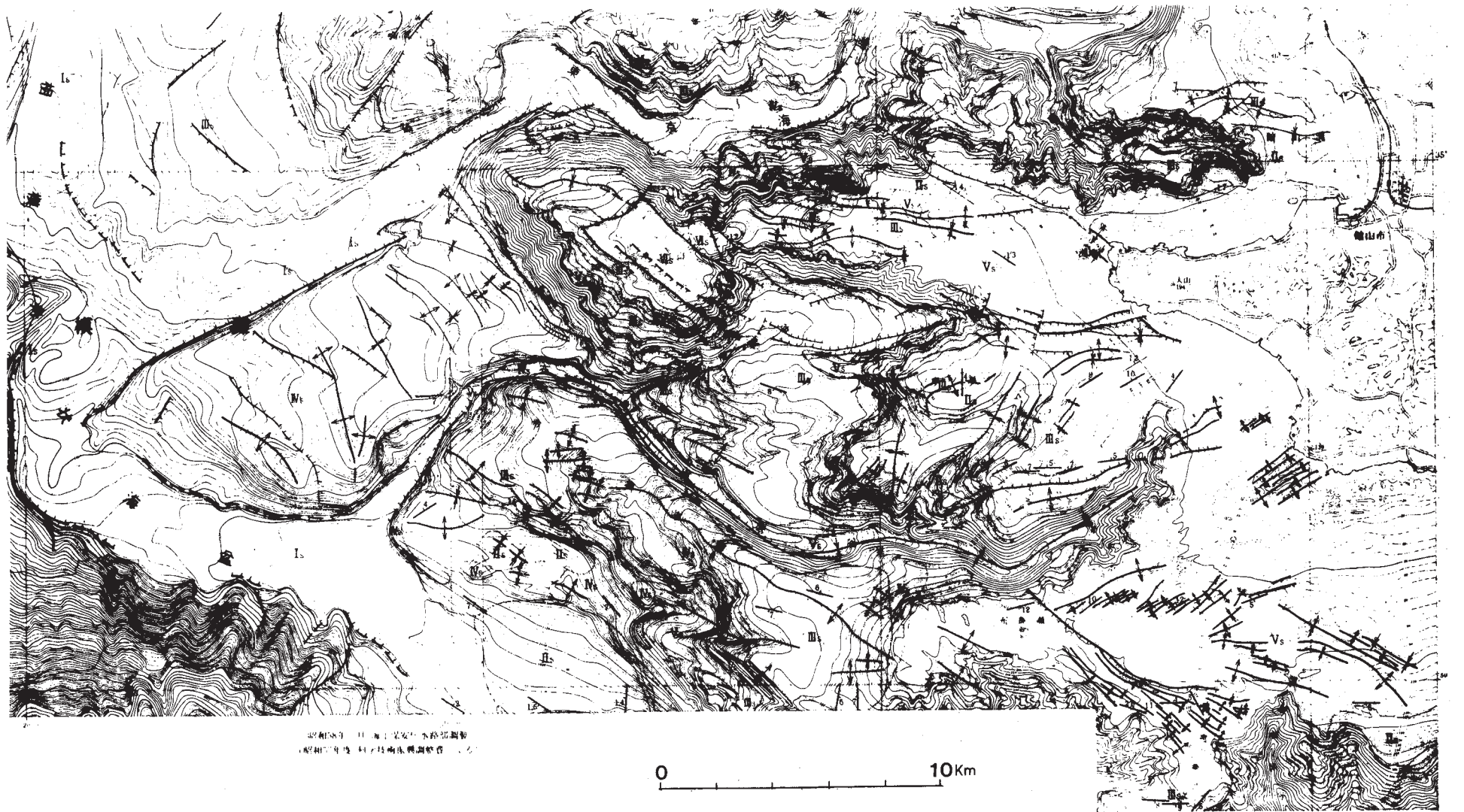
層 序 区 分

	時 代		陸上地質層序*	音波探査層
堆積岩類	第 四 紀	現 世	沖 積 層	I s
		更 新 世	相模・下総層群	II s
	第 三 紀	鮮 新 世	上 総 層 群	III s
		中後期中新世		IV s
		中後期中新世	三 浦 層 群	V s
		前中期中新世	葉山・保田層群	VI s
火成岩類	第 四 紀		火 山 岩 類	VII s

* 東京湾とその周辺の地質（三梨昂他1976）による



第1図 洲崎沖の海底地形
 Fig. 1 Bathymetry offing Sunosaki.



第2図 洲崎沖の地質構造
 Fig. 2 Geological Structure offing Sunosaki.